

■武野紹鴎	茶人・富商。村田珠光の開いた茶道を大成し、千利休ら堺商人へ伝え“堺流茶の湯開祖”となるも、早世。
たけのじょうおう	
・ ・ ・ ・ ・ 1502＝	和泉国堺南庄で、_皮革を扱う有力町衆武野信久の子に生まれる。名は仲材、通商新五郎。 _祖父仲清は、若狭の守護大名武田氏の一族であったが、応仁の乱で戦死。父信久は諸国を流浪の果てに、 当時、自治都市として栄えていた堺に武威を張る三好元長の好みで、ようやく居を定め、姓を武野に改めた といい、なお兵力を養っていたという。新五郎の名は守護大名以来使われ、母もまた豪族の出であった。
1507＝ 5歳：	父が出家し、乗信と号する。
	幼い頃から学問を好むとともに、
遣明使・ ・ ・ 1511＝ 9歳：	
1514＝12歳：	
義興周防帰国	1518＝16歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1520＝18歳：	三周忌には出家するよう遺言して、母が死去。
	折からの戦乱で、_ニーズのあった武具用の皮革を扱って、一代で財を成し、
・ ・ ・ ・ ・ 1525＝23歳：	_上洛し、四条室町の夷堂の脇に屋敷を構えて大黒庵と称し、 _印政・宗碩・周桂ら著名連歌師と親密に交流して、連歌師ともみられ、
大内義興没・ 1528＝26歳：	連歌師印政につれられて、三条西実隆と初対面。以後、その家計を援助しながら古典・和歌を学び、
・ ・ ・ ・ ・ 1529＝27歳：	「詠歌大概」序(藤原定家)の講釈により茶の湯の極意を感得するとともに、
遣明船復活・ 1530＝28歳：	村田珠光の弟子藤田宗理と、能阿弥以来の書院茶の湯を引く十四屋后計宗悟・宗陳とから学び、
天王寺合戦・ 1531＝29歳：	実隆のお蔭で従五位下因幡守に叙され、堺人としては、本来の武家らしく、山科一向一揆を収めるべく、本願寺に出陣するなど、武門再興は目前になったように見えたが、
大和一向一揆	1532＝30歳：*遁世するかかのように、大徳寺で出家して紹鴎と号し、さらに堺の南宗庵の大林宗套から一閑居士号を受けると、「佐びの文」などによって、わびという美意識を確立、堺の豪華で派手な町並みのなかに、“市中の山居”と呼ばれる、自然を取り込んだシンプルな茶室を建設する一方、豊かな財力に任せて、松島茶壺・玉欄筆波の絵など名物を5, 60種も所持する、重層的な美を現出させた。
・ ・ ・ ・ ・ 1537＝35歳：	その間、実隆には、この年彼が死去するまで、そのもとで学び続け、連歌師の顔も保たれていたようだ。
銀輸出始・ ・ 1538＝36歳：	
・ ・ ・ ・ ・ 1539＝37歳：	_父が死去して、堺に戻り、家督を相続すると、
・ ・ ・ ・ ・ 1540＝38歳：	*友人から、田中という若い者に茶の湯を教えて欲しいと依頼され、以後、15年導くことになり、後の千利休が誕生するのである。
鉄砲伝来・ ・ 1543＝41歳：	_茶杓や水指に竹や木地の道具を用いるなど、古物ではないが新鮮な清々しさを見せる新しい道具も創造。
	_珠光の四畳半茶の湯をさらに徹底し、慎み深くて清新な小座敷(茶席)の形式の内に心の養いを求めるのがく儒抄の茶の湯の根本であるとして、千利休に深い影響を及ぼした。門下に利休のほか、津田宗及・今井宗久がいる。
勘合船終・ ・ 1547＝45歳：	
ザビエル来日	1549＝47歳：
大友布教許可	1552＝50歳：*近畿八カ国を支配下に収めた三好長慶は、権力を誇示すべく、帰依していた大林宗套の南宗庵の大改築に着手、大伽藍の南宗寺にしてゆくが、その資金を寄付し続けて、
大陸邦民事件	1555＝53歳：_没した。その後も遺族が、大々的に寄付している。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典。角山榮「堺～海の都市文明」、戸田勝久「武野紹鴎論」で追補、